

子どもまち探検企画を通じた地域の防災学習の取り組みとその効果

Effects on Learning about Local Disaster Prevention through Town Exploration for Children

○岡西 靖¹, 藤岡泰寛², 三輪律江³, 田中 稲子², 稲垣 景子²
Yasushi OKANISHI¹, Yasuhiro FUJIOKA², Norie MIWA³,
Ineko TANAKA² and , Keiko INAGAKI²

¹ 有限責任事業組合 地域と子どもプロジェクト

Limited Liability Partnership “Project of Community and Children”

² 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院

Graduate School of Urban Innovation, Yokohama National University

³ 横浜市立大学学術院 (国際総合科学群)

Association of International Arts and Science, Yokohama City University

This study is the examination about the effectiveness of local disaster management through Town Exploration for Children. Town Exploration for Children will celebrate its 10th year in this year, the theme is water in local area. Past Town Exploration for Children is not only just learning, but contributing to the improvement of the local disaster prevention force. Through these events, we get good cooperation between region and university.

Keywords : Disaster Education , Local Disaster Management , Collaboration

1. 研究の目的

横浜国立大学では、保土ヶ谷区和田町地域の町内会や商店街とともに「和田町タウンマネジメント協議会」を設置し、住民とともにまちづくりを進めながら、地域における実践的な研究活動を行っている。その活動の一つとして、「子どもまち探検企画」という名称で子ども視点のまちづくりイベントを継続して実施し、今年で10年目を迎える。そのイベントと地域の防災活動との連携などについては、本学会でも数回にわたって報告を行っている。

本研究では、これまでのまち探検企画における防災学習と、10年間の活動の積み重ねによって醸成された大学と地域のつながりの中で取り組んだ防災活動などについてまとめ、地域防災力向上への効果を考察する。

2. これまでの子どもまち探検と防災学習

(1) これまでのまち探検企画について

子どもまち探検企画は、「和田町タウンマネジメント協議会」内の「地域と子どもプロジェクト」として位置づけられ、平成15年度から開始され、地域の町内会である和田西部町内会と大学が中心となって企画・実施している。「子ども」をキーマンとして地域の繋がりを広げ商店街と地域の活性化を促すことをその主目的としている。探検のテーマは歴史、環境、安全、福祉などを取りあげている。これまでの探検テーマと主な学習内容は表1のとおりである。

表1 これまでの探検テーマと主な学習内容

回	テーマ	主な学習内容
第1回	歴史	まちの由来などの地域の歴史
第2回	環境	地域のごみ問題
第3回	防災・防犯	地域の防災・防犯資源の状況
第4回	福祉	まちの中の福祉環境の状況や地域内の福祉施設との交流
第5回	歴史	かつての地域産業や地域内の歴史資源について
第6回	環境	まちの中の自然環境について
第7回	防災・福祉	いっとき避難場所、災害時要援護者対策について
第8回	防災・福祉	災害要援護者の避難対策について
第9回	歴史・防災	まちの水害とその対策
第10回	環境・防災	まち中の水（湧水、井戸、防災用水等）の分布

(2) まち探検企画における防災学習

まち探検企画のテーマとして最初に防災を取り上げたのは第3回で、このときは地域内の防災及び防犯資源の分布状況を明らかにすることを主な内容として取り上げた。

第7回以降は防災と他のテーマを融合させた取り組みが主となっているが、これは国内の震災や風水害によって町内会の関心が防災対策に向けられていたことが影響している。また内容も地域の具体的な防災対策に直結する内容となっており、一部には地元町内会の防災対策と連動して実施されている。

(3) まち探検と防災学習の効果

初期のまち探検企画では、イベントとしての企画は大

学が中心となってい、地域とともに運営していたが、回数を進めるごとに企画段階から地域と大学が協力するようになり、大学側が地域の状況をより理解した上で企画を検討できるようになったことやイベントへの地域住民の参画を得やすくなったことなどの効果が挙げられる。これらを継続したことで大学と地域の間に信頼関係が構築され、次年度のイベントではさらに企画から運営までが円滑に進められるようになっていった。

防災学習に関しては、第3回では全国で行われている防災まち歩きのような表面的な現状認識から始めたが、その後は主に水害に関する体験談など地域固有の防災情報などを学習テーマに組み込み、より和田町という地域視点に特化した内容になってきている。また、本来、防災学習は他の領域（ここでは歴史、環境、福祉）などと切り離して学習するものではなく、学際的な学習であるべきものである。その点では最近では防災と他の領域の複合テーマとなってきたことは、まちを学ぶという点からも当然ことであろう。

3. 今年度の子どもまち探検企画

今年度の子どもまち探検企画は、環境と防災の複合テーマとして「水」を取りあげている。まちの中に存在する河川や湧水、井戸の状態はその地域の自然環境の豊かさの指標になり、災害時には消火用水、生活用水などにも利用可能である。

(1) 地域の水に関する資源の現状と課題

和田町タウンマネジメント協議会は、ほぼ和田1丁目、和田2丁目を合わせたエリアとなっており、これまでのまち探検企画もこのエリアとその周辺を加えた範囲内で実施してきた。この範囲内の水資源の現状は、地区の中で地形が平坦な部分を帷子川が流れれており、昭和40年代くらいまでは大雨時に氾濫して浸水被害を与えていた。地区の北部の斜面地に井戸や湧水が5~6か所確認されている（図1~4）。湧水については、斜面地がほとんど住宅地となり、雨水の新党面積が減少していることから以前ほどの湧水量はないと思われる。また井戸についても上水道の普及により以前は地区内にも多く存在したと考えられるが、今は4か所ほど確認されているにとどまっている。



図1 井戸の点検の様子



図2 地区内の湧水
(パイプで導水)



図3 斜面地の井戸
(手押しポンプ式)



図4 斜面地下端の井戸
(電動ポンプで揚水)

(2) 今年度のまち探検の流れ

今年度は地域内の水資源の現状をチェックし、その結果を受けて、地域内の水に関する環境をより豊かにする方法を考え、それらの資源を日常生活でどのように活用していくか、加えて災害時に断水となった場合を想定して水資源の有効活用も合わせて考えることとしている。

(3) 町内会における水に関する防災対策

今年度の子どもまち探検は企画の準備段階を経て、町内会においても災害時の水の確保の重要性を認識し、現状の水資源の活用に加えて、井戸や湧水などのが存在しない地区や町内会館など地域の防災活動の拠点となる施設に雨水貯留施設の導入など、今後の地域の防災まちづくり活動につながる意見も出ており、子どもまち探検を受けて、町内会の防災活動に連動して発展していくものと思われる。

4. 地域の防災学習とその効果（考察）

これまでの子どもまち探検における防災に関する学習の部分については、イベントの後の参加者に対する意識調査などを実施していないため、定量的な学習効果は不明な部分であり、今後検討していく必要はあるが、子どもまち探検で子どもたちが学習した内容は地域に発信する機会を作るとともに、何らかの形（例：別のイベントに引き継がれたり、町内会の防災対策の検討で具体化していったりすること）で地域にその成果が反映されるため、子どもたちの受け止めは単なる学習よりは高いものと思われる。

地域の防災力を強化するには地域のコミュニティに関わる課題であるため、中長期にわたる取り組みが欠かせない。しかし、たとえば本研究のように長期間にわたる地域と大学の協働による取り組みに関する研究は数が少ない。また取り組み自体も当初は手さぐりの進めている部分も多く、研究として分析的に進めることの難しさもあるが、一連の取り組みから得られた成果や教訓などはその地域の防災力向上のためだけでなく、全国に広く発信し、地域の防災まちづくりに参考事例として活用していくことも重要である。

謝辞：本研究を進めるにあたり地域住民の方々及び和田西部町内会の方々にお世話になったことに深く謝意を表します。